

# ダウンサイドリスクを測る ——健康リスクの測定・評価からの学び

瀧澤 郁雄

JICA 緒方貞子平和開発研究所 主席研究員

人間の安全保障にかかわる重要な概念に、ダウンサイドリスクがある。本項では、人間の安全保障の測定・評価に資する視座の提供を目的に、健康に対するダウンサイドリスクの測定・評価に関する最近の取組みを紹介する。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的大流行（パンデミック）は、感染症が健康や社会経済に対する大きなダウンサイドリスクであることを現実に示し、パンデミックの発生や拡大につながるリスクを測定・評価する取組みが加速した。代表例が、世界健康危機モニタリング委員会（Global Pandemic Monitoring Board: GPMB）である。GPMBは、2014年からのエボラ感染症の大流行を契機に設立された国連グローバル健康危機タスク・フォースを引継ぎ、WHOと世界銀行の共管で立ち上げられた組織で、パンデミックリスクの分析を行っている。その枠組みが、GPMB モニタリング・フレームワーク（GPMB 枠組み）である。

GPMB 枠組みは、パンデミックの発生や拡大を後押しするリスクとして、社会、技術、経済、環境、政治の5領域から各3項目（全15項目）を特定し、4段階（非常に高い～低い）で評価している（表1）。各項目に既存の国際比較指標を紐づけているが、最終的な評価はGPMB委員、WHO専門家および世界から選ばれた各分野の専門家による協議を経て決定している。

GPMB 枠組みが集団に対するダウンサイドリスクを捉えているのに対し、個々の健康に対するリスクを捉える参考となるのが、健康（健康公正）の社会的決定要因（social determinants of health、social determinants of health equity: SDH）の測定・評価の枠組みである。SDHは健康格差への関心を背景とし、過去にはWHOの関連委員会による報告書（2008年）で概念整理がなされた。COVID-19が健康格差を顕在化させたことで改めてSDHへの関心が高まり、WHO

によるSDHの測定・評価枠組み（SDH 枠組み）策定へとつながった。SDH 枠組みは、経済的安定と平等、教育、環境、社会・地域との関係、健康行動、医療の6領域の全86指標で構成されている（表2）。

表1 GPMB 枠組み

- 社会：社会格差，個人主義，国際移動
- 技術：デジタル接続，誤情報，医療革新
- 経済：経済発展，経済格差，社会保障
- 環境：気候変動，農法・営農，都市
- 政治：統治，信用，紛争

出典：GPMB（2024）より著者翻訳にて作成

表2 SDH 枠組み

（カッコ内は指標の数）

- 経済的安定・平等：雇用（7），食糧（2），経済格差（2），貧困（6）
- 教育：教育アクセス（3），教育の質（2），教育成果（5），
- 環境：大気汚染と気候（2），災害（1），エネルギー・燃料・技術（2），住居（5），土地所有（1），交通安全（1），水・衛生（6），都市化（5）
- 社会・地域との関係：紛争・犯罪・暴力（5），差別（1），強制移動・移住（4），ジェンダー平等・女性のエンパワメント（3），健康な高齢化（1），拘禁（1），社会の支え（1）
- 健康行動：アルコール（1），運動（1），タバコ（1），栄養（5）
- 医療：医療への物理的・経済的アクセス（6），保健システム（6）

出典：WHO（2024）より著者翻訳にて作成

本レポートで述べられている見解は執筆者個人の見解であり、JICA や JICA 緒方研究所としての見解を示すものではありません。

これらから、人間の安全保障に対するダウンサイドリスクの測定・評価について重要な示唆が得られる。まず前提として、パンデミックとして顕在化したダウンサイドリスクの影響が、甚大で長期化し得ることを指摘したい。先進国が強靱な回復力を示したのに対し、低中所得国の多くでは経済成長への傷跡が長期にわたって残っていることが、IMFの分析からうかがえる(図1)。同様の回復の遅れは、人間開発についてもUNDPが指摘している。

第一の示唆は、全社会的(whole-of-society)な視点の必要性である。GPMB枠組みはパンデミックの発生・拡大リスクを5領域15項目で、SDH枠組みは健康リスクを6領域86項目で整理することで、社会や個人が直面するリスクを包括的に捉えている。健康は人間の安全保障の中核的な要素であり、SDGsの中でも他のゴールとの相関が高いことから、健康に対するダウンサイドリスクの多様性は、人間の安全保障に対するダウンサイドリスクの多様性と重なる部分が多い。

第二に、人間の営みから生じるリスクへの着目がある。現代では、人間の営み、特に市場原理に基づく営利活動やそこから生じる外部性が、社会や地球にとってのリスクとなっている。例えばGPMB枠組みでは国際移動、農法・営農、都市、気候変動などがそれに該当する。またSDH枠組みに含まれるアルコールやタバコは、市場でのマーケティング活動が健康への脅威となる事例である。UNDPが提唱した「人新世における人間の安全保障」とも呼応する視点である。

第三に、ダウンサイドリスクへの対応力を左右する要素として、人と人とのつながりや社会性の重視がある。GPMB枠組みの、個人主義(でないこと)や信頼が該当する。目には見えず客観的評価は難しいが、これらはレジリエンスの基盤となる。人間の安全保障に対するダウンサイドリスクへの対応も、我々が個人や国の枠を超えて協力しあえるかにかかっている。なお、いくつかの要素については、恩恵とリスクの二面性があり、単純に数値の大小では評価できず、総合的な判断が必要な点も注意を要する。具体的には、GPMB枠組みのデジタル接続や医療革新など、科学技術に関係するものが該当する。

人間の安全保障の実現を妨げ、引き戻すダウンサイドリスクは多岐にわたり、人間自身の営みに起因するものもある。またリスクに抗するレジリエンスは、人と人との関係にも左右される。その測定・評価において、最近の健康に対するダウンサイドリスク測定・評価の取り組みから学べることは多い。

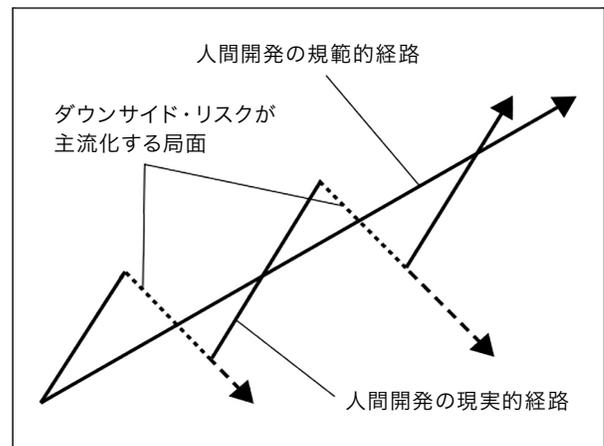
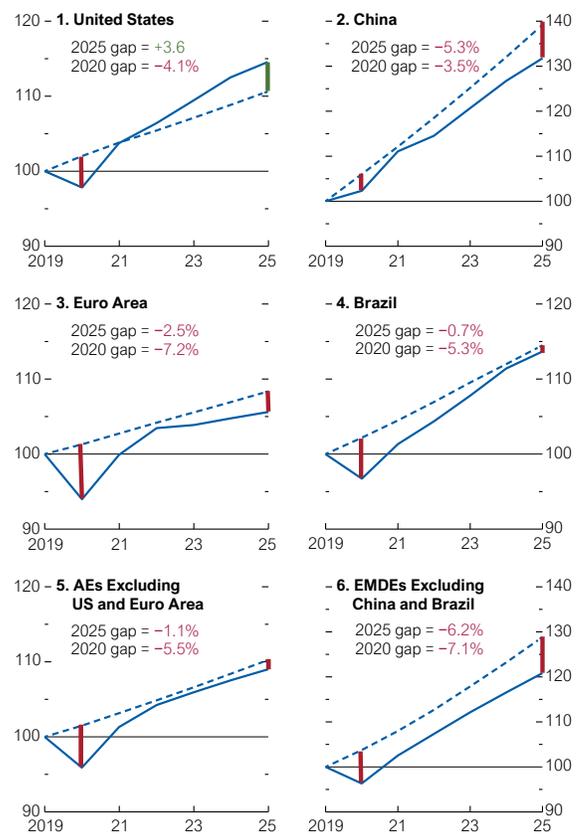


Figure 1.8. Real GDP versus Prepandemic Trend (Index, 2019 = 100)



Source: IMF staff calculations.  
 Note: Solid-line data are from April 2025 *World Economic Outlook* (WEO). Dashed lines denote prepandemic trend based on January 2020 WEO *Update*. AEs = advanced economies; EMDEs = emerging market and developing economies.

図1 ダウンサイドリスク顕在化の概念図(上)とCOVID-19パンデミック後の経済成長率の実際の推移(パンデミック前の傾向との差、下)の比較

出典: JICA 緒方貞子平和開発研究所(2024) p.9・IMF(2025) p.5

## 参考文献

国際協力機構（JICA）緒方貞子平和開発研究所，2024，『概要 今日  
の人間の安全保障』第2号（特集「複合危機下政治社会と人間の  
安全保障」），JICA 緒方貞子平和開発研究所。

Global Pandemic Monitoring Board (GPMB). 2024. *Expanding pandemic  
risk assessment: An annex to the GPMB 2024 report*. Geneva:  
GPMB.

International Monetary Fund (IMF). 2025. *World economic outlook: A  
critical juncture amid policy shifts*. Washington DC: IMF.

United Nations Development Programme (UNDP). 2025. *Human  
Development Report 2025 A matter of choice: People and possibilities  
in the age of AI*. New York: UNDP.

World Health Organization (WHO). 2024. *Operational framework for  
monitoring social determinants of health equity*. Geneva: WHO.